

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策Ⅲ-1-2 発達段階に応じた教育の振興
---------	-----------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	教育施設課長 松本 洋子	電話番号	0852-22-5909
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	校舎等大規模修繕事業		
目的	(1) 対象	県立学校の児童生徒	
	(2) 意図	整った教育環境で学校生活を過ごせるようにする。	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・建築後、概ね15年以上経過した校舎・体育館等に対し、屋根防水や外壁の修繕を行うことにより建物の耐久性・安全性を維持する（通常リフレッシュ事業）。 ・また、築35年以上の主要な学校施設については、屋根・外壁に加え、設備・内装等についても可能な範囲で総合的にリフレッシュし、教育環境の向上を図る。（緊急リフレッシュ事業） 		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	大規模修繕の実施率	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		79.40	79.40	79.40	79.40	
式・定義	実施済棟数/実施必要棟数		実績値	85.00	85.50	85.50	83.00		%
			達成率		107.70	107.70	104.60		%
式・定義	指標名	校舎等リフレッシュ（緊急分）の実施率	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	6.80	17.20	37.90	
式・定義	実施済棟数/実施必要棟数		実績値	0.00	0.00	0.00	1.00		%
			達成率		0.00	0.00	5.90		%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	951,273	1,070,723
うち一般財源(千円)	897,717	491,823

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・平成25年度から緊急リフレッシュ事業を順次着手して、教育環境の改善を図った。
 （平成25年度は4校5棟実施、平成26年度は4校5棟実施）
 ・平成27年度は新たに11棟に着手予定
 今後、大規模修繕を実施する必要がある建物の棟数は増加していくが、事業費は限られている状況である。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

・平成26年度に2校3棟の緊急リフレッシュが完了し、建物の耐久性・安全性と教育環境の快適性が向上した。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

・学校施設の老朽化が進み、防水性などの施設の健全性や教育環境の快適性が低下している。

②困っている状況が発生している「原因」

・建築後の経年が進むことにより、大規模修繕を要する棟数が増加している。

③原因を解消するための「課題」

・従来の築60年を目安とした改築計画では同時期に多くの施設が改築期を迎えるため、平準化を図る必要がある。
 ・小規模修繕（早期の予防保全）を取り入れた維持管理と学校施設の状況変化を捉えた修繕が必要である。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・築35年以上の校舎等主要施設を対象に、長寿命化のため内部・設備も含めた施設改修を平成32年度まで集中的に実施する。
 ・改築・改修、それらが必要となる箇所、範囲、規模、内容、実施時期など、各学校施設の状況変化を適切に把握し、整備を行っていく。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）